

A Study on the Teaching Method of Kendo in Physical Education Class 4

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/663

正課剣道における指導法の研究 (Ⅳ)

…面・小手一面打撃指導手順…

恵土孝吉・渡辺 香*¹・小田佳子*²
井上哲朗*³・三苫保久*⁴

はじめに

一般に武道系教材はサッカー、バレーボール、バスケットボール等の球技教材に比べ、技術指導が難しいといわれる。指導が難しいといわれる理由は、ア) 系統的学習がなされていないこと。イ) 基本動作の学習に多くの時間が割かれるために、学習者の意欲が減退すること。ウ) 多種多様な技を教えすぎで消化不良となること。エ) 一過性試技による、やってみよう指導。などが挙げられる。換言すれば、「指導者の教材に対する研究不足」である。

一方、第15期中央教育審議会の答申により、中学や高校では「課題解決学習」の導入が求められている。言うまでもなく課題解決学習は生徒が学習目標、学習内容、学習方法を選択したり、あるいは自ら計画したり出来るような学習資料、例えば学習ノート、学習カード、VTR、図書などをいかに教師が周到に準備するかが期待されている学習法である。

本研究では、中学生を対象として剣道技術の基礎となる面打撃指導の手順とその延長線上に位置する小手一面打撃指導の手順を考案するとともに実際に指導し、選択制授業における課題解決学習に対応できる知見を得ることをねらった。

I 面打撃指導の手順

1 研究方法

(1) 指導内容・手順……指導内容は恵土らが考案した⁶⁾ 下記の(a)～(f)までの手順を用い、50分間の一斉指導を行った。(a) 自然に歩いて右足前で止まった姿勢をとらせる。

(b) 両手を腰にあて「前」「後」「前」「後」と号令により前進と後退を2から3分間行う。次に(c) 両手を腰にあて「前」「前」「前」と号令により前進を2から3分間行う。(d) 両手を腰にあて(竹刀は持たせない) 右脚を上小さくあげさせたのち「トン」と踏み込ませ、その後送り足を5から8分間行う。(e) 竹刀を持たせ「右諸手上段の構え」(写真1)をとらせたのち、右脚を上小さくあげさせ(写真2)「トン」と踏み込ませ、その後送り足を行う。これらの動作を8から10分間行う。(f) 近間に位置し中段の構えをとらせる。振りかぶって面を打ったのち、送り足により体をさばく。約15分間行う。

(2) 指導者・学習者……恵土案の指導案⁶⁾を公表した際、指導者の指導技能の巧拙が大きく影響を与えているのではないかという指摘を考慮して、今回は剣道歴は18年、4段の24歳保健体育専攻の男子大学院生とした。また、学習者は三校からなる剣道入部希望の剣道未経験中学1年生、男女21名を対象とした。

(3) 評価・実施場所……評価の観点はいろいろ考えられるが、今回は有効打突の条件である、「剣体一致」の度合を、剣道の有段者5人が収録したビデオフィルムを再生、観察し、学

平成11年9月14日受理

*¹ 中部大学

*² 金沢大学大学院教育学研究科

*³ 国際武道大学

*⁴ 滋賀県立八幡高校

習時間の割合から「よくできている」、「できている」、「どちらともいえない」の三段階で評価した。実施場所は市立末広体育館で実施した。

2 結果

剣道の有段者5人が「剣体一致」の度合を評価した結果、21名中「よくできている」が17名。

(写真3、4)「できている」0名。「どちらともいえない」が4名(写真5)であった。

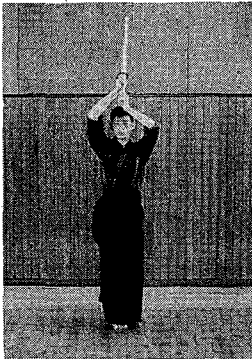


写真1. 竹刀を持たせ「右諸手上段の構え」をとらせたところ。

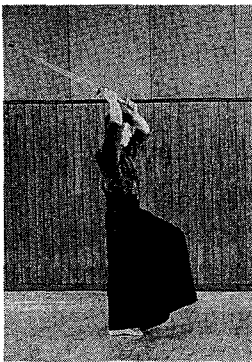


写真2. 右脚を上にな小さくあげさせたところ。

3 小括

面打撃指導で難しいのは「気剣体一致」を学習させることである。通常よく指導されている方法は、「一足一刀の間から、大きく振りかぶり、右足を強く踏み込んで面を打たせる」ものである。この方法による学習では上肢と下肢の

調整が極めて困難な様相を示す。従って本研究では通常実施されている指導に代えて(1)に示した手順を考案し、実施してみたところ、概ね好評であった。

II 小手一面打撃指導の手順

1 研究方法

(1) 指導内容・手順……最初に恵土らが考案した面打撃指導⁶⁾を40分間一斉指導により指導した。その後5分間休憩させ、次いで今回新たに考案した以下の手順を約40分間一斉指導により指導した。すなわち、(a) 近間で中段の構えをとらせる。小さく振りかぶって小手を打ったのち送り足を行わせる。約15分間。(b) 近間で中段の構えをとらせる(写真6-1)。小さく振りかぶって(写真6-2)小手(補助棒)を打ったのち左足を右足に引きつけて一旦静止させる(写真6-3)。次いで小さく振りかぶって(写真6-4)面(補助棒)を打った(写真6-5)のち送り足を行わせる。この動作を約25分間行う。

(2) 指導者・学習者……教職歴36年、剣道歴47年、剣道6段の剣道専門男子大学教官が行った。また、学習者は三校からなる剣道入部希望の剣道未経験中学1年生、男女29名を対象とした。但し、三校とも本実験開始前までに下記の練習を行っていた。A校(4名)では、45分間のみ練習を行っていた。練習内容の内訳は、中段の構え方、三挙動の素振り30回×3セット、一挙動の素振り30回×5セット、足さばき、などを30分間。ランニング・筋力トレーニング(腕立て・腹筋・背筋運動)などを15分間であった。B校(13名)では14日間(総練習時間624分)練習を行っていた。1日約60分間。練習内容の内訳は、主にランニングであった。但し1日のみ中段の構え方、足さばき三挙動の素振り20回×4セットなど25分間であった。C校(12名)では14日間(総練習時間は312分)練習を行っていた。1日約30分間。練習内容の内訳は、中段の構え方、足さばきなど10分間。



写真3 剣道の有段者5人が「剣体一致」の度合を「よくできている」と評価した17名7名の打撃姿勢（一番右の姿勢は打撃のための振りかぶり動作。一番左の姿勢は打撃した瞬間）



写真4 剣道の有段者5人が「剣体一致」の度合を「よくできている」と評価した17名7名の打撃姿勢（一番右の姿勢は打撃のための振りかぶり動作。一番左の姿勢は打撃した瞬間）

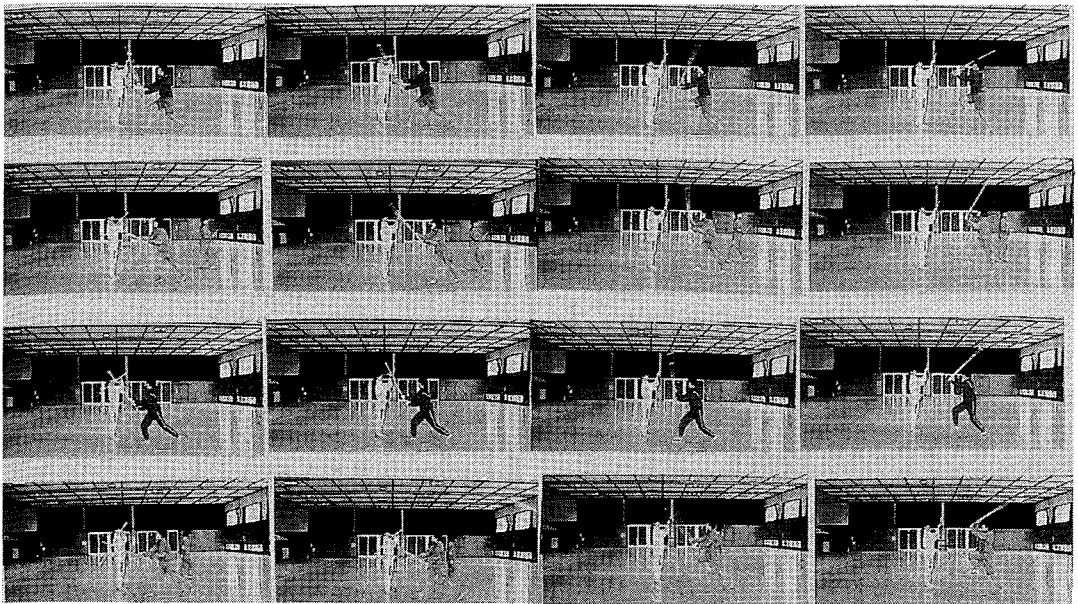


写真5 剣道の有段者5人が「剣体一致」の度合を「どちらとも言えない」と評価した4名の打撃姿勢（一番右の姿勢は打撃のための振りかぶり動作。一番左の姿勢は打撃した瞬間）

三挙動の素振り20回×4セット、一挙動の素振り20回×4セット、正面打ち5本×5セット、ランニング・筋力トレーニング（腕立て・腹筋・背筋運動）など20分間であった。

（3）評価・実施場所……評価の観点はいろいろと考えられるが、今回は剣道の有段者5人が小手一面打撃時の「剣体一致と体さばきのスムーズさ」の度合を中心に、収録したビデオフィルム（指導後、面打撃テストを行った）を観察し学習時間の割合から「よくできている」、「できている」、「できなかった」の三段階評価で行った。なお、参考までに評価の理由を聞いた。実施場所は市立末広体育館で実施した。

2 結果

剣道の有段者5人が「剣体一致と体さばきのスムーズさ」の度合を評価した結果、「よくできている」が35.2%、「できている」が48.2%、「できなかった」が16.6%であった。

3 小括

小手一面打撃指導で難しいのは「剣体一致と体さばきのスムーズさ」を学習させることであ

る。通常よく指導されている方法は「一足一刀の間から、大きく振りかぶり、右足を強く踏み込んで小手を打たせ、すかさず両拳を小手がみえるところまで振りかぶり面を打たせる」ものである。この方法による学習では上肢と下肢の調整や小手から面を打つ際の体の移動が、極めて困難な様相を示す。従って本研究では通常実施されている指導に代えて面打撃手順で示した改良点に加えて、小手を打ったときに左足をひきつけ一旦静止動作をとらせたところ（写真6-3）、概ね好評であった。

III 総括

異¹²⁾は課題解決学習の現状について、学習資料などが用意されていても機能していないと指摘し、その原因を、ア)「課題を解決するためには、どのような学習を計画したらよいか」、イ)「できるようになるには、どのような練習方法があるのか」、ウ)「つまずいたときにはどのようにすればよいか」等の問題に対応できる学習方法を、教師側が十分に提示していないこと

に起因していると述べている。本研究は課題解決学習を想定して、巽が指摘する「できるようになるには、どのような練習方法があるのか」について、中学生を対象に剣道技術の基礎となる面・小手一面打撃指導の手順を考案し、実際に指導し問題点などの検討を試みた。その結果、有段者の面・小手一面打ちの手順に対する評価は高率で好評であった。

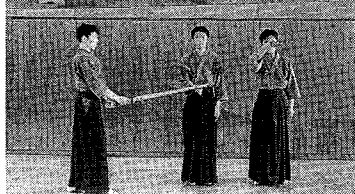
好評であった大きな理由を二つ挙げるができる。一つは距離的要素と動作的要素に対して改善を加えたことである。凡そ初学指導では



近間で中段の構えをとらせるところ。
(写真6-1)



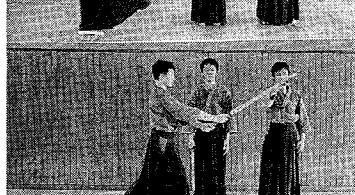
小さく振りかぶったところ。
(写真6-2)



小手(補助棒)を打ったのち左足を右足に引きつけて一旦静止したところ。
(写真6-3)



小さく振りかぶって面を打つ準備をしたところ。
(写真6-4)



面(補助棒)を打ったところ。
(写真6-5)

写真6 小手一面打撃指導の手順

「容易・簡単な事から難・複雑な事へ」「近いところから遠いところへ」、「ゆっくりした動作から速い動作へ」と言う原則のもとに指導をしなければならない。したがって、本研究ではこの原則を踏まえた指導を試みた。剣道学習で最も重要な動作である、「気剣体一致した動作」学習に対して、面・小手一面打ちの手順で示したように(1)から順を追って打撃動作を分割指導した点と、小手一面打ちでは、次の面打撃を正確に打撃させるために、小手を打ったあと左足を引きつけて一旦静止動作をとらせ、面部位への異常な接近をさせなかった点である。

一般的にとびこみ面打ちに限らず、定番化された打撃指導は一足一刀の間(約240cm)からの距離を固守するとともに、打撃動作を「振りかぶり動作」、「振り降ろし動作」、「踏み込動作」、「体の捌き」に分割せず、一連の打撃動作として学習させるのが常である。言葉を代えて言えば完成型の打撃動作を求めたものである。このような指導法は、週4~5回、1回について約2時間程度の練習を4ヶ月間実施している経験者にとってもかなり難しい動作であり、⁹⁾いわんや、未経験者にとっては完成型の打撃動作は難しい学習内容である。

二つめは教科剣道のみならず、一般的に剣道の技術指導は「一子相伝」とか「門外不出」の考え方や「百錬自得」の考え方などが根底にある。今回の指導はこの武道指導法の特異な考え方を改めた点である。すなわち、「日本武道は実践の場で勝つために命懸けの修練を繰り返し創作した高度の精神的、技術的、伝統的文化であり、わざは秘宝であって、一部のものだけに教えられる」¹⁴⁾と指摘している言葉が、その理由を端的にしかも代表的に示している。自分の生命を守るため、命懸けで編み出したわざを他人に具体的に披瀝したり、教えることはいわば自己の生命の保持と少なからず関連することであり、決して、容易に他人に教えるわけにはいかないことである。このような考え方は、課題解決学習が叫ばれる現代に至っても教科内・外

の剣道指導者に受け継がれている。例えば「武道推進校報告」の文部省への報告^{1,13,15,16)}や商業誌あるいは授業参観にみられる指導は、「生徒全員を集ませた後、先生または生徒の模範的試技を観察させて、ねらいである技の学習をさせる方法」を採用している。いわゆる「一過性試技」による「やってみよう指導」である。このような指導法は「明治時代の体操教授法である、『模範—説明—模倣—反復—矯正』のシステムをそのまま導入したもの」と見做して見直しを求めている¹⁰⁾。多数の生徒が、中学生になってから初めて剣道を学習することを考慮した場合、一過性試技方法は、技全体の構成は大脳で瞬間的に理解できても、その技を身体運動として再現することは極めて困難である。言葉を代えて言えば「10と0」との間が欠落した「中抜き試技」による指導法では正確な打突動作を効率よく学習できないものと考えられる。

学校教育の教科として、また課題解決学習に対応できる教材として剣道指導が一層効果的・能率的におこなわれるためには、武道指導法の特異な考え方、すなわち、一過性試技方法や距離的要素あるいは動作要素に対して、更なる検討や工夫が必要と考えらる。

5 まとめ

中学生を対象として剣道技術の基礎となる面打撃指導の手順とその延長線上に位置する小手一面打撃指導の手順を試案し、実際に指導し問題点など検討し課題解決学習に対応できる知見を得ようと試みた。その結果、面打撃指導の手順では「剣体一致」の度合を、剣道の有段者5人が評価した結果、21名中「よくできている」が17名。「できている」0名。「どちらとも言えない」が4名であった。小手一面打ちの手順では「剣体一致と体さばきのスムーズさ」の度合を剣道の有段者5人が評価した結果、「よくできている」が35.2%、「できている」が48.2%、「できなかった」が16.6%であった。

なお、①面打撃指導の手順は第30回日本武道

学会で、小手一面打撃指導の手順は第31回日本武道学会で恵土が発表した。②実験データ収集については、小田が担当した。

参考文献・引用文献

- 1) 青森県上北郡天間林村天間館中学校 「生徒が意欲をもって、主体的に取り組む剣道の指導はどうあるべきか」。武道推進校第2年次報告書 文部省 1992
- 2) 石井 久 剣道の学習指導に関する研究—技術指導の体系化について—。北海道教育大学紀要、2、pp110—124、1965
- 3) 恵土孝吉ら 運動技術の中核と学習指導のポイント「剣道」 体育科教育、33巻、pp131—133、1985
- 4) 恵土孝吉ら 正課剣道の指導。金沢大学教育学部教科教育研究、22、pp113—128、1986
- 5) 恵土孝吉 正課剣道授業と指導内容の精選—剣道らしい動作を習得させためために— 体育の科学、38—1、pp63—67、1988
- 6) 恵土孝吉ら 正課剣道における指導法の研究。剣道の初心者指導。武道学研究、5—1、pp 5 1972
- 7) 恵土孝吉ら 正課剣道の手ほどき指導事例。武道学研究、22—2、p145 1989
- 8) 恵土孝吉ら 剣道技における動きづくり。体育の科学、42—7、pp541—546、1992
- 9) 恵土孝吉 未発表資料
- 10) 曾根喜美男 武道教育論 星雲社 1997p52
- 11) 田中静雄 学校剣道の指導理念に関する研究。武道学研究、1—1、1968
- 12) 巽 申直 「生徒一人一人を伸ばす」ための剣道の学習指導試案(2) 武道 日本武道館 1999 9 p212
- 13) 千葉県立船橋高等学校 文部省指定武道推進校 「生涯体育に通じる武道指導を求めて—武道の魅力を経験できる授業研究を中心に—」文部省 1992
- 14) 富木謙治 武道論 大修館 1991 p65
- 15) 兵庫県氷上郡氷上町立氷上中学校 武道推進校研究紀要 「礼節を重んじ心豊かな生徒の育成—自ら律する理性を培う武道指導—」文部省 1992

-
- 16) 三橋 衛 生涯体育に通ずる武道指導をもと
めて。千葉県立船橋高等学校 平成2・3・4
年度 文部省指定武道推進校報告
- 17) 文部省 学校剣道の手引き。大蔵省印刷局、
1993
- 18) 渡辺 香 剣道の技術指導に関する理論的考
察。(2)、中部工業大学紀要、1983